

Assessment Policy

評価方針

Utsuho Academy Primary School

うつほの杜学園小学校

1. 評価へのアプローチ

うつほの杜学園小学校は学習における評価の重要性を理解しています。評価を通じて、児童は自らの達成度を理解し、さらなる目標を設定し、それらの目標を達成するための具体的な方法を考えることができるでしょう。目標は、達成可能であり、生徒にとって十分なレベルでなければなりません。このような評価が効果的に機能するためには、学校コミュニティ全体が評価の目的を正しく理解する必要があります。学校はこれを達成するための措置を講じる責任があります。

2. 哲学

評価とは、教師にとっては、教育課程の成果を生徒の達成結果で測定し、今後の指導について再検討するためのものです。また、生徒にとっては、自身の学習をよりよくするための自己分析をするために、さまざまな証拠から情報を収集するためのものです。教師は、課題の質を明示的に特定された基準に照らして判断し、達成度を表す値（マーク、または成績）を割り当てます。教師は、児童が身につけたことを実証し、進捗状況を評価し、評価の可能性を最大限に引き出す具体的な戦略を特定できるように、児童とも協力して行います。評価に関するすべての手順と結果は、生徒だけでなく保護者にも明確に提示、説明されます。

3. 形成的評価と総括的評価

3.1. 形式的評価は、児童の学習を向上するために、証拠を収集、分析、解釈、使用する過程を表します。それは日々の学習過程に組み込まれ、指導上不可欠な要素です。形成的評価は、学習の進捗状況に関する情報として、教師と児童に提供されます。教師は、児童に具体的な分析を提供するとともに、次のステップの足場として児童の必要性に応じた個別指導を行うために役立てます。形成的評価の結果は、児童が自らの進捗状況を把握し、学習アプローチを調整し、学習内容を反映した上で、個々の目標を設定するために使用されます。言い換えれば、形成的な評価は学習の基礎であり、達成度を測定し、児童の総合知を評価するために使用される総括評価の「より高い支柱」の本質となるべく児童を導きます。

3.2 総括的評価は、単元末や学期末に行われる文科省の学習指導要領および検定教科書等で学んだ知識を児童が実証したり、探究した結果を証明したりする機会です。教師は、評価基準に基づいて学習者の学力の質と量を判断し、その質と量を表す値を割り当て、児童、保護者、教師、管理職に達成に関する情報を伝えるために使用します。

*この文書は、変更の必要が生じる等の特別な場合を除き、二年ごとに理事・教職員が中心となって見直しを行う。

2024/09/27